令和４年度第３回さいたま市社会教育委員会議　次第

（第11期第６回会議）

日時：令和５年１月23日（月）
　　15時00分から
会場：市役所別館２階
　　第５委員会室

１　開　会

２　挨　拶

３　議　事

⑴　報告事項

・前回会議について

⑵　協議事項

・第11期さいたま市社会教育委員会議提言の構成について

４　連絡事項

５　閉　会

令和4年度第3回(第 11 期第6回)さいたま市社会教育委員会議　出席者名簿

No.	氏　名	選出母体等	備　考
1	石田　玲子	さいたま市公民館運営審議会委員	
2	井上　久雄	青少年育成さいたま市民会議副会長	
3	加藤　美幸	十文字学園女子大学特別招聘講師	副議長
4	桑原　静	特定非営利活動法人さいたまＮＰＯセンター専任委員	
5	小森谷　由紀江	埼玉県児童福祉審議会委員	
6	佐藤　理恵	公募委員	欠　席
7	関根　公一	公募委員	
8	髙山　俊介	さいたま市中学校長会	欠　席
9	千明　勉	さいたま市立小学校校長会	
10	塚元　夢野	公募委員	
11	林　弘樹	映画監督	
12	溝口　景子	さいたま市ＰＴＡ協議会会長	
13	吉川　洋一	(公財)さいたま市スポーツ協会副会長	
14	若原　幸範	聖学院大学准教授	議　長
15	亘理　史子	浦和大学非常勤講師	

(50 音順)

(事務局)

1	山浦　麻紀	教育委員会事務局生涯学習部長
2	辰市　健太朗	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課長
3	馬場　智哉	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課副参事
4	竹居　秀子	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課参与
5	石田　悦子	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係長
6	伊藤　智美	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係主任
7	清宮　雅貴	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係主任
8	中村　和哉	教育委員会生涯学習総合センター参事兼副館長
9	水澤　祐子	教育委員会中央図書館参事兼資料サービス課長

令和４年度第２回（第 11 期第５回）さいたま市社会教育委員会議　会議録

○開催日時：令和４年 11 月 24 日（木）10 時 00 分～12 時 00 分
○開催場所：ときわ会館３階　第２会議室
○出席者名：【委　員】若原　幸範議長、石田　玲子委員、井上　久雄委員、
桑原　静委員、小森谷　由紀江委員、関根　公一委員、
塚元　夢野委員、溝口　景子委員
【さいたま市シニアユニバーシティ校友会連合会】
大田　章会長
【事務局】（生涯学習部）　山浦　麻紀
（生涯学習振興課）辰市　健太朗、馬場　智哉、竹居　秀子、
石田　悦子、伊藤　智美、清宮　雅貴
（資料サービス課）水澤　祐子
（高齢福祉課）　渡邊　将太、来栖　奈菜
○欠席者名：加藤　美幸副議長、佐藤　理恵委員、髙山　俊介委員、千明　勉委員、
林　弘樹委員、吉川　洋一委員、亘理　史子委員
○公開・非公開の別：公開
○傍聴人の数：なし

１　開　会

２　挨　拶

３　議　事

⑴　報告事項　前回会議について

令和４年度第１回会議及び 11 月１日実施の臨時自主ワークショップの概要について、会議録に基づき説明した。

⑵　協議事項　第 11 期さいたま市社会教育委員会議ワークショップについて

（ア）事業説明・事前質問への回答

資料１別紙を基にヒアリング対象事業の「高齢者大学事業（シニアユニバーシティ）」について、所管の高齢福祉課とシニアユニバーシティ校友会連合会より概要の説明と、社会教育委員から事前に募った質問事項への回答を行った。

【事前質問回答】

①　大学・大学院共にコロナ前後の推移や入学金の有無・金額について伺いたい。

＜高齢福祉課＞

大学・大学院を併せた入学者数は令和元年度 803 人、令和２年度 585 人、令和３年度 597 人、令和４年度 612 人であった。現在はコロナ禍により定員を低く設定しているため、必然的に入学者数は減っている。

入学金については０円だが、教材費として実費で上限 3,000 円までを御負担い

ただいている。

②　岩槻校は休会中とある。活動内容等の現状を伺いたい。
＜校友会連合会＞
　校友会活動には三段階あり、まず各校で入学年度が集まる第何期というものがあり、各校の各期が集まる協議会の活動があり、そして協議会が集まる連合会がある。
　岩槻校については、協議会の機能は継続しているものの、連合会には未加入という状況である。未加入となっている事情だが、コロナ禍によりここ数年の新規入学者が少なく、連合会に役員を送ることができないためである。
　なお、岩槻校の協議会としては、人数が揃えば連合会への役員派遣も再開する意思があるとのことである。

③　大学は大宮、北浦和は定員を超える申し込みがあるが、大学院はどこの地域も定員割れになっている原因は何か。また、定員を超える申し込みがあった場合、会場の変更等で入学は可能か。
④　大学院の人数が少ないが、大学から大学院に進むにあたり人数が減る要因は。
＜高齢福祉課＞
　③と④は関連があるため併せて回答する。
　大学に入学した全員が自動的に大学院に進学するシステムではないので、高齢のため、家庭の事情、健康問題、思っていた活動と違った、既に仲間づくりを達成できた、等の理由で大学院に進学されない方は毎年一定数いる。
　なお、令和４年度の大学院生については令和３年度に大学に入学した方が進学対象なのだが、募集時期に新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発出されていたため、例年に比べ特に入学者数が少なくなっている。
　定員を超える申し込みがあった場合については、申し込み時に第２希望まで選択することができ、抽選で第１希望に入れない場合は、第２希望の校へ入学していただいている。また、次年度申し込みたいという要望があれば、優先的に入学できるような仕組みとなっている。

⑤　目的の「地域社会での活躍」に関わって、授業外のボランティア活動や校友会における地域での活動が重要かと考えるが、実際にどのようなことが行われているか。
＜校友会連合会＞
　各校で独自に活動しているため一概には言えないが、シニアユニバーシティの意義の一つとして、さいたま市でボランティアを重点的にやっていくリーダーの養成という意識がある
　具体例としては、さいたま市とタイアップしたふるさと応援活動として活動のたびに募金箱を設置している他、活動で利益が出た場合、さいたま市に応援寄付として収めている。

それ以外にも区役所や社会福祉協議会、ロータリークラブ等とタイアップしごみ拾い活動を実施している会もあり、いつも 300 人ほどに参加いただいている。

また、マジックやオカリナの演奏、フラダンス等を練習し、ボランティアとして市内の介護老人保健施設を慰問して披露する活動を行っている会もある。

⑥　情報提供について、具体的な内容と提供方法を伺いたい。また、情報はどの程度活用され、活動に生かされているのか。

＜高齢福祉課＞

セカンドライフ支援センター、生涯学習振興課、子育て支援政策課、社会福祉協議会等と連携し、各窓口の登録方法や、内容の説明、ボランティア活動の事例紹介等の情報提供をしているが、情報の活用状況については把握していない。

⑦　補助金の金額の基準、また校友会による補助金の活用内容と、その他の支援策について伺いたい。

＜高齢福祉課＞

補助金は予算の範囲内において運営費・事業費に対して補助を行っている。

その他の支援策として、在学生・卒業生の活動を支援するシニアユニバーシティ活動ステーションの運営や、校友会連合会のイベントの周知依頼に応じ、市内公共施設へのチラシ配置の協力等がある。

⑧　100 年寿命が話題となる中、健康や経済とともに、生き甲斐は極めて重要と考える。政府や県及び市との役割はどのように分担されているのか。また、さいたま市としての特長や、他市との比較が知りたい。

＜高齢福祉課＞

国の役割は、都道府県や市町村に対して方向性を示すもの。都道府県や市町村の役割は、各自治体のニーズに合わせた事業展開と考えられる。

埼玉県が行っている「埼玉未来大学」では、ボランティア団体、ＮＰＯ等の立ち上げや、地域ビジネス等シニアユニバーシティと比較してやや専門的な内容を学習できる一方、シニアユニバーシティは、教養分野の学習に加え、高齢者の仲間づくりを行い、卒業後も地域に根づいた活動ができる。

他自治体との比較としては、授業料が 0 円であることが挙げられ、政令指定都市においては本市のみの特長である。また、運営についても多くの政令指定都市が老人クラブ連合会、公益財団法人、指定管理者制度を活用しており、業務委託として一般競争入札を行っている自治体は少数であると認識している。

⑨　大学で学んだ経験や知識を社会で生かしていけるよう校友会があり、校友会を通して様々なイベントや発表会に参加できるのは社会とつながり、高齢者の方々の生きがいにもつながる取組み。ユニバーシティをもっと広く知っていただくよう今後どのような広報を検討されているか。

＜高齢福祉課＞

市報への募集記事の掲載や、市内公共施設に募集案内を配置することで周知している他、シニアユニバーシティ事務局のホームページで、在学生・卒業生・市民に向けての情報を発信している。校友会連合会のイベントについては、依頼があればチラシの配置も行っている。

⑩　「独自のイベント」について、どのようなものがあるか。

＜校友会連合会＞

校友会の活動は大きく健康活動と文化活動の二つに分けられる。

健康活動の具体的なメニューとしては、ゴルフ、グラウンド・ゴルフ、ボーリング等の体育活動がある。またそれ以外に東浦和校協議会と北浦和校協議会が例年、浦和まつりの踊りに参加している。

文化活動の内容には二つあり、一つは会員の知識を深めるために大学の先生等をお呼びして講演していただくものがある。もう一つには「演奏会」と称してプロの演奏家をお呼びして演奏していただく活動がある。プロの演奏家の方々にはボランティアとしてお越しいただける方がいらっしゃるので、それらの方の御厚意によって埼玉会館やプラザノース等で演奏いただけている。

活動の目標として「シニアを家に置いてはいけない、とにかく家から出てもらう」というものがあり、シニアの方に来ていただき、２時間ぐらいの時間楽しんでいただくことを目的として、これらのイベントを開催している。

⑪　「場がない」という方に対しての「場づくり」で、情報提供以外に、市として行っていることはあるか。

＜高齢福祉課＞

シニアユニバーシティ活動ステーションの運営や、校友会連合会への支援によって「場づくり」に貢献しているものと考えている。

⑫　「人材育成」や「周知」は重要かと思うが、市として現在行っていることはあるか。

＜高齢福祉課＞

周知については、⑨で説明したとおりの支援を行っている。

＜校友会連合会＞

人材育成については一点目として、まず全体の人数構成で女性が７割を占めているが、比較的指導的地位にいる女性は少ない現状がある。そこで、特に女性の活躍を促進するため、女性部会を設けて協議会や各期の会長に就任していただく方を増やすための教育を行っている。

二点目としては出前講師制度がある。シニアの方々はこれまでの人生で様々なことを経験していらっしゃるので、それをデータベース化して他の学校等にボランティア的に活用いただく制度である。例としては数学教授が中学の入試問題についてシニアの立場で考える算数講座や、オペラ、オカリナ、マージャンの指導等、遊び、学問を問わず様々な講師がいらっしゃる。我々の活動の不文律とし

て、役職や肩書によって扱いを変えることがないように、前の会社及び役職は不問として名前で呼び合うというものがある。

もう一つ今年から始めたものとして、魅力的な事業を企画する人の養成がある。これは事業の企画やパンフレットの作成等のスキルを持つ人を各協議会に５名ずつ養成しようという目標のもと動き始めている。

⑬　本事業は、生涯教育の中核であり、高齢化社会対策の中心と考えるが、課題点解決の為の障害は何か。

＜高齢福祉課＞

シニアユニバーシティとしては、ウィズコロナの時代となり人と人との繋がりを強く求めない社会になっていることが問題点と考えている。事業の中でも校友会の設立や自主的活動の実施を促してはいるが、各校で現状には差が生じている。

＜校友会連合会＞

校友会としては、シニアユニバーシティの第一期生は入学から既に 22 年が経過しており、全員が 80 歳を超えている。そのため協議会は若い期で運営し、先輩の期には参加者として見守っていただき、世代交代をスムーズに進めなければならないという課題がある。

またそもそも、入学者の平均年齢が毎年高齢化しており、校によっては入学者の平均年齢が 70 歳を超えている。そのため、シニアユニバーシティとしての活動期間が非常に短くなってしまうことがある。

高齢化で体が動かなくなることに伴って、健康事業と文化事業のうち体育系活動を減らし、演奏会のような活動を増やしている。

同様に、組織の運営者として携わる人員が減っている現状もあり、苦労しながら個人的に勧誘していることも悩みの種である。

⑭　多世代交流について、保育園や小学校での事例があれば伺いたい。

＜高齢福祉課＞

現状、特段として世代間交流を行っている事例はないが、シニアユニバーシティ活動ステーションが所在しているのびのびプラザ大宮の建物内に保育園があるため、お楽しみ会を一緒にやったり、ハロウィンの立ち寄りの場所になったりといった交流はある。

（イ）グループワーク

２つのグループに分かれ、さいたま市の生涯学習として新たに考えられる取組や、現在行われている生涯学習の取組に参考にできること等について意見交換を行った。

（ウ）グループ発表

＜Ａグループ（発表者：塚元委員）＞

まず、今回のワークショップでは校友会の方がいらっしゃったので、実態をお聞きしながら話すことができたことが良かった。

一点目は人づくりや学びのきっかけに関して、シニアユニバーシティはシニアの学びのきっかけづくりとなっているところ、そして出前講座の話にあったように各人が持っている特技を生かすことができるところが非常に良い活動であるという話があった。

次につながりづくりとしては、各世代や地域とのつながりを考えると、せっかく色々なスペシャリストが集まっているので、外に向けてお祭りのようなものを開催してはどうかという話や、公民館等で講師が活躍できる場があると良いという話があった。

シニアユニバーシティは内部のつながりがすごく緊密で、講演会やゴルフなどの活動をされているので、さらに世代を超えたつながりづくりができると良いという意見も出た。例えばBibliのような交流施設等で昔の遊びコーナーを作って、子育て世代の人が遊びに行ってメンコやけん玉ができるという企画があると、世代を超えたつながりづくりにもなるのではないか。

シニアユニバーシティの方々が、ファミリーサポートや緊急サポートサービスのような子育てボランティアに申込んでいただけたらありがたいとも思う。私自身も子育て世代としてニーズがあるし、地域のシニアの方々に助けていただけないかとも日々思っているので、ニーズがあるところにマッチングしていくことも一つの手だと思った。

また、入学金・授業料が０円で仲間づくりができるという話や、プロの方をボランティアで呼べるという話も非常に魅力的だったが、そのことを知らない方も多いので、さいたま市は30代50代、そしてシニアも住みやすい街ですよということをまだ知らない方々に向けて、家をどこに建てようかなとか、終の棲家をどこにしようかと迷っている人たちにもどんどんＰＲして欲しいという意見もあった。

情報発信に関連して、シニアの方々の情報網はＳＮＳやインターネットではなく、リアルな口コミで広がっているという話もお聞きし、非常に面白いと感じた。その一方で現在50代、60代の人は、既にかなりＩＣＴにも慣れ親しんでいるので、今後ＳＮＳ等の利用も増えていくだろうと考えられる。

高齢化に関連し、シニアユニバーシティの中では70代でも若者という話もお聞きし、これも面白いと感じた。私自身も仕事や私生活の中で、なかなか若い人がリーダーなってくれないという話を聞くので、リーダー層の高齢化はどこの組織でも共通した課題となっていると思った。

＜Ｂグループ（発表者：桑原委員）＞

まずシニアユニバーシティは生涯学習ビジョンの理念でもある、学んでつながって、学びを生かすということを体現する場であるところが素晴らしいと、皆様の意見を聞いて改めて感じた。

Ａグループの発表でもあったが、少々ＰＲが弱いところは課題である。例えば本日のようにシニアユニバーシティを知らない方に説明する時に使える資料がなく、

募集期間のＰＲ活動以外の場ではない、普段から見てもらうような資料や動画のようなものが必要という話があった。

授業に関して、Zoom の活用のようなオンラインによる講座も今後必要ではないかとか、現在も卒業生の方に講師として来ていただくことがあるのだが、卒業生による授業枠のようなものを設けて、さらに積極的に学びを生かす場があっても良いのではないかという話があった。

また、卒業後の進路に関しては、現在も授業の中でシルバー人材センターやファミサポのようなものを紹介しているが、なかなか実際には繋がっていかないところがあり、本当は例えば高校のように個人面談をして、一人一人に丁寧に紹介していければまた違うかと思っている。

り・とらいふのように相談窓口もあるにはあるのだが、やはり少々距離を感じる方もいらっしゃるので、いつも皆様がいる活動ステーションの中に、進路の相談窓口のようなものがあっても良いかと思った。そこで届ける情報の中に、現状でも先ほど会長から説明いただいたように様々活動やボランティアがあるのだが、なかなか全部の情報を一元化して把握できないので、卒業後、公的な窓口だけではなく、卒業生を受け入れてくれる団体やボランティアの情報も提供できる基盤となるデータの整備も必要だと考える。

つづいて、これもＡチームの発表にもあったが、他部署や学校、コミュニティスクール等との連携も必要であり、今後定年が 70 歳以上に上がっていく時に、どのように社会変化に対応していくかも、今後考えていかなくてはならないという意見が出た。

他にはシニアユニバーシティの前から通えるオンラインのプレスクールのようなものがあれば、広報にも役立つし良いのではないかという意見もあった。

【総括】

＜若原議長＞

今回も委員の皆様には熱心に議論いただき、とても良い発表をしていただけたことに議長として感謝している。

Ｂグループの発表で触れられたことだが、生涯学習ビジョンが目指す「個の成長」から「輪の成長」そして「まちの成長」、地域の発展につなげていくことを考える際に、本当にシニアユニバーシティはその典型となるものであり、重要な報告をしていただいた。

これまでのワークショップでは、議論の中でネットワーク、多様性、そして可視化という大きく分けて三つのキーワードが挙げられたが、今回の報告やグループの議論でもこのキーワードには改めて触れられていた。

まず、ネットワークという観点として、多様な分野の機関や関係者とのつながりを深めることは、講座の学習内容を豊かにするためでもあり、また学習した後の活躍の場を広げていくことでも意義を発揮するところであり、多くの分野で拡充を進めていくべきと考える。

そして多様性という観点では、今回特にシニアユニバーシティを取り上げたことによ

って、世代間の交流、特に高齢者と若い世代との交流をどのように進めていくかについて、改めて示された。

つづいて、可視化の問題である。これもやはり多くの領域で課題となっているが、さいたま市の生涯学習を考える上で、とても重要な論点だという改めて確認した。

これらに加え、今回特にさらに深められた点としては、まちづくりに関わるものとして、学習の成果の生かし方や活躍の場という視点がある。そこを作る時に、地域でまだ見つかっていないニーズがたくさんあるのではないかとＡグループの発表でもあった。例えば今、ファミリーサポートの担い手が少なくなっている状況があり、そこに高齢者の方が参加していただけないかというような、地域の様々あるニーズと、学習を経て活躍の場を求めている人とのマッチングが重要になる。

社会教育の観点から言うと、特に地域に根差した公民館等がそのようなニーズを集約しつつマッチングできる拠点になっていくと良いかもしれない。

地域にどう結びつけていくのか、地域のニーズにどう結びつけていくのかというところは、今回のワークショップで改めて掘り下げられた部分だと考えている。

今回を含めて３回のワークショップを実施したが、次回以降はこれまでの成果を軸に、社会教育委員の皆様と共に第 11 期社会教育委員としての提言をまとめていく議論をしていきたいと思う。

⑶　連絡事項

桑原委員が発表者として登壇した「第 53 回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会」と、「第 64 回全国社会教育研究大会広島大会」の概要について報告した。

４　閉　会

以上

まとめシート（Ａグループ）

活動報告の充実化
一般にあまり
知られていない
私自身現役
なので知らなかった

＜連携＞

多世代
交流

連携
スポーツ振興課
文化・芸術の課

募集期間以外
でのＰＲ
（パンフレット
欲しいです）

ＰＲ活動
入校勧奨

＜ＰＲ＞

参加意識向上
・認識度アップ
（機会、内容案内）
・参加しやすさ

各協議会の
地域組織との
交流促進

達成感の指標づくり
・長期的な活動発表
の場を提供
・吟味必要だが表彰
制度

進路相談
窓口の設置
@活動
ステーション

人口構造の変化
⇒70 歳↑
社会貢献・ボランティア
身近な場
⇒ＣＳ内に仕組み

卒業後の
ボランティア等
活動情報の把握
⇒紹介できる

人生 100 年時代を
みすえて継続的に
参加できる取組

＜進路＞

オンライン
Zoom 等の
活用

卒業生による
授業枠

＜授業＞

社会変化（主に長寿命化）
に伴う役割分担見直しへの
理解向上
旧）楽しければ良い
新）社会貢献による
満足度向上

高齢化対策

＜社会変化へ
の対応＞

退職前から
ソフトランディング
生涯学習を学ぶ場
カリキュラム開発
ＩＣＴ活用

地域のつながり

生きがい
健康維持

仲間づくり

ボランティア
活動への推進

人材の供給者と
して公表

学び―つながり―学び
大学～大学院～　を生かす
・組織だっている
・自主運営力の育成
（人財育成）

人材育成の視点をも
った取組（制度）

まとめシート（Ｂグループ）

今日行く、今日用（事）　家から出る
“教育”　“教養”

学びのきっかけ（人づくり）

シニアの学びのきっかけ作りとなっている

高齢者が家から出て社会と連携できる

学習
↓
地域活動
ボランティア

市民の特技を活かす

費用

プロの方をほぼボランティアでよべる部分

入学金０円
授業料０円
教材費 3,000 円位
good

入会金が０円、
安い教材費で活動
→仲間づくりができる部分

多世代・地域（つながりづくり）

ファミリーサポートや緊急サポートサービスなど子育て支援のニーズあるボランティアとの連携
→まちづくり

他団体との連携をとり、他世代間交流に力を入れる。
・保育園児が発表しに行く
・小学校の文化祭などに昔遊びを教えに行く　など

世代を超えた「つながりづくり」の促進
→昔の遊びコーナーをビブリに作るとか

色々なジャンルのスペシャリストが集まってのおまつりのようなもの

出口の多様化
↓
そのためのネットワーク拡大

地元、公民館が「講師」の場をつくる

PR

口コミで広がる

30 代～50 代へ「シニアも住みやすい街」であることをＰＲ

情報発信
↓
活躍している卒業生を前面に

今後はＳＮＳも？

高齢化

若い世代は自分のことで精いっぱい…。
世代交代はむずかしい。

60 歳入学　遅くなる
→65 歳
→70 歳
入学へ

資料１

第 11 期社会教育委員会議　提言の作成について

１　会議スケジュール

回／開催時期	主な審議内容
第１回／令和３年 11 月	終　　了
第２回／令和４年　１月	終　　了
第３回／令和４年　３月	終　　了
第４回／令和４年　７月	・　第１回ＷＳ　スポーツ推進委員支援等事業
自主会／令和４年 11 月	・　第２回ＷＳ　消防団の充実強化
第５回／令和４年 11 月	・　第３回ＷＳ　シニアユニバーシティ
第６回／令和５年　１月 今　　回	・　提言の構成について
第７回／令和５年　３月頃	・　提言の内容について（骨子の作成）
第８回／令和５年　７月頃	・　提言完成の報告

２　提言のテーマ

提言の中心となる部分。前回までのワークショップの話し合いを基に、生涯学習ビジョンを実現するための提言を行う。

「さいたま市生涯学習ビジョン」を実現していくための方策について

⑴　個人の学習成果がつながりづくり、まちづくりにつながり、地域社会の発展に生かされるための方策

⑵　市民と生涯学習提供者双方に生涯学習ビジョンを理解してもらうための方策

３　ワークショップから見えたキーワード

⑴　学習活動の可視化・見える化について

第１回ＷＳ 議長まとめ	地域の中で生涯学習やまちづくりの多分野で活動されている方をどのように可視化するか。見えるからこそつながることができる。
第２回ＷＳ 議長まとめ	広報や情報発信という面で活発に意見が出された。消防団活躍推進室は非常に情報発信に対するアンテナが高く、チャンスを掴んで広報活動に繋げている。

⑵　学習活動のネットワークや地域での連携について

第１回ＷＳ議長まとめ	つながりとは実は市民同士のつながりづくりだけではない。生涯学習は多様な分野に跨っており、その分野を超えたつながりが薄いということは共通の課題。
第２回ＷＳ議長まとめ	学校に地域をつなげていく、或いは地域が学校を応援していくという双方向の関係を作っている。学校を拠点にした地域のネットワークも、生涯学習の面でも重要な観点。
第３回ＷＳ議長まとめ	多様な分野の機関や関係者のつながりを深めることは、講座の学習内容を豊かにするためでもあり、また学習した後の活躍の場を広げていくことでも意義を発揮する。

⑶　多様性への視点について

第２回ＷＳ議長まとめ	ジェンダーや、他国籍の方へ配慮するだけでなく、実際に参加してもらうことで見えてくる視点や、活動の広がりもある。
第３回ＷＳ議長まとめ	世代間の交流をどのように進めていくか。

⑷　学習成果の生かし方・活躍の場の提供について

第３回ＷＳ議長まとめ	様々ある地域のニーズと、学習を経て活躍の場を求めている人とのマッチングが重要。地域にどう結びつけていくのか、地域のニーズにどう結びつけていくのか。

４　提言策定の進め方（75 分）

①　各委員で各項目に盛り込みたい提言内容を考え、付箋に書き出す。（５分）

⑴　**個人の学習成果がつながりづくり、まちづくりにつながり、地域社会の発展に生かされるための方策**

→　黄色の付箋

⑵　**市民と生涯学習提供者双方に生涯学習ビジョンを理解してもらうための方策**

→　ピンクの付箋

②　付箋を模造紙に貼り付けながら、各委員が２分ずつ提言内容を発表する。（35 分）

③　自身の発表の補足、互いの提言内容についての意見や質問、話し合い。（25 分）

④　議長、副議長よりまとめ（10 分）

資料２

第 11 期さいたま市社会教育委員会議　提言（構成案）

「さいたま市生涯学習ビジョン」を実現していくための方策について

１　はじめに　（執筆：事務局）

２　「さいたま市生涯学習ビジョン」を実現していくための方策について　（執筆：社会教育委員会議）

⑴ 個人の学習成果がつながりづくり、まちづくりにつながり、地域社会の発展に生かされるための方策

① 学習活動の可視化・見える化について

a 市民に対し、その目的に応じた活動の選択肢を提示する

② 学習活動のネットワークや地域での連携について

a 行政組織の中で分かれている団体や機能のネットワークを強める

b 既存のネットワークを利用し、新しい活動を行う

c 他都市、組織等をベンチマークやライバルとして、交流を図っていく

③ 多様性への視点について

a 外国籍の方など、多様な背景を持つ方が参加できる環境を整備する

b シニアと子育て世代など、世代間の交流を促し、困りごとなどを解決する

④ 学習成果の生かし方・活躍の場の提供について

a 市として、フェスティバルを開催して生涯学習の成果を示す

b 生涯学習のモチベーション維持のための表彰やポイント制などを行う

c 市民大学やシニアユニバで学んだ市民が講師として発信できる場を設ける

⑵ 市民と生涯学習提供者双方に生涯学習ビジョンを理解してもらうための方策

a ＳＮＳ・動画公開サイトなどを活用して、情報発信やＰＲを行う

b Youtuber、インフルエンサーなど発信力のある方を活用する

３　ワークショップの記録　（執筆：事務局）

４　おわりに　（執筆：議長）

５　資料編　（執筆：事務局）

（案）

資料３

１　はじめに

さいたま市では、本市の生涯学習のあるべき姿を示すため、第10期さいたま市社会教育委員会議において議論を行うとともに、市民アンケート調査や現場職員へのヒアリング、市長部局との意見交換等を実施し、それらの議論を踏まえて教育政策推進戦略会議において検討を加え、令和３年３月に「さいたま市生涯学習ビジョン」を策定した。

また、文部科学省の**第11期中央教育審議会生涯学習分科会**でも、令和４年８月に出された議論の整理において、「学び」を通じた、人と人のつながり・絆の深まりが、地域コミュニティの基盤を安定させることが生涯学習・社会教育の果たしうる役割として改めて示され、社会的包摂の実現や、地域コミュニティ構築に関連する者の連携・協力を促進することが地方公共団体に求められている。

第 11 期さいたま市社会教育委員会議ではこれらの背景を踏まえ、「さいたま市生涯学習ビジョン」の掲げる「人づくり」、「つながりづくり」、「まちづくり」という３つの方向性を推進し、「生涯の学びを通じて　自分とまちが輝く未来」を目指すため、「『さいたま市生涯学習ビジョン』を実現していくための方策について」というテーマを設け、協議・検討を行ってきた。

提言の作成にあたっては、庁内の各所管が市民と協働して実施している生涯学習にかかわる事業についてヒアリングを行い、それらの事業から本市の生涯学習として新たに考えられる取組みや、現在行われている取組みに参考にできることなどを検討し、提言として反映するためのワークショップを実施した。

全３回のワークショップでは、それぞれに特色ある事業を題材とし、「個人の学習成果がつながりづくり、まちづくりにつながり、地域社会の発展に生かされるための方策」と「市民と生涯学習提供者双方に生涯学習ビジョンを理解してもらうための方策」という観点から議論を重ね、ここに提言として取りまとめた。

本提言が、将来にわたって本市の生涯学習振興のための推進力として活用されることを期待する。

生涯学習施策の推進に関する国の動向　資料3別紙

平成30年６月　人づくり革命　基本構想

我が国は、健康寿命が世界一の長寿社会を迎えており、今後の更なる健康寿命の延伸も期待される。

こうした人生100年時代には、高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくる必要があり、その重要な鍵を握るのが「人づくり革命」、人材への投資である。

平成30年６月　第３期教育振興基本計画　（閣議決定）

～2030年以降の社会像の展望を踏まえた教育施策の重点事項～

- 「人生100年時代」と「Society5.0」の到来に向け、「人づくり革命」や「生産性革命」の一環として生涯にわたる学習や能力向上が重要
- 教育を通じて生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化することを教育施策の中心に据えて取り組む

⇒ 生涯学び、活躍できる環境を整える［施策例：リカレント教育の推進・社会人が働きながら学べる学習環境整備・障害者の生涯学習推進］

令和４年８月　第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理

～全ての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支えあう生涯学習・社会教育に向けて～

- ウェルビーイング（「個人」の幸せ＋周囲の「場」のよい状態）の実現
- 誰一人として取り残さない学習機会の提供
- 国民全体のデジタルリテラシーの向上
- 「学び」を通じた、人と人とのつながり・絆の深まりによる地域コミュニティの基盤安定
- 社会人の学び直しをはじめとするリカレント教育の推進
- 障害者の生涯学習推進

令和５年　次期教育振興基本計画　（予定）